

オールアース住宅

佐藤邸 + natural sweet Sen
千葉県四街道市

文・写真＝雨宮明日香

に家具がくっついていければ家具を通じて電気が体に流れてしまうから。そして、コンセントのアース対策もかかせない。

目に見える効果

で安心できる、と佐藤さん。お子さん3人がアト

ピー性皮膚炎だったこともあり、なるべく自然なものを選んできた。自然派住宅を探して

オールアース住宅は一步入ると気持ちがいい。との噂を聞きつけ早速訪問！確かにこの家「気持ちがいい」(自宅で予約制のカフェを営む家主の佐藤さんのお人柄と笑顔によることも多分にある)。

オールアース住宅

を知るためには、まず「電磁波」の文字を分解してみよう。「電」＝「電場」、これはコンセントプラグを差し込んだ時点で発生し、体の表面を覆って誘導電流をつくり出す。「磁」＝「磁場」、これは家電製品のスイッチを入れた時点で発生。すべての物質を通り抜けて、電磁誘導により熱変化を起こす。

磁場からの影響は距離をとること、つまり家電製品から離れれば防げる。一方、電

場から逃れるにはアースを取ること。しかし、完全に逃れるのは容易ではない。というのも、オールアース住宅を手掛けるレジナの調査によると、日本の住宅の屋内配線の平均量は50年前の150mから950mに1 代表

の土田直樹さんは、「これだけの電場があ

る住宅は日本だけ」と言う。私たちの生活空間は電気ケーブルで繙まれた巣なのである。

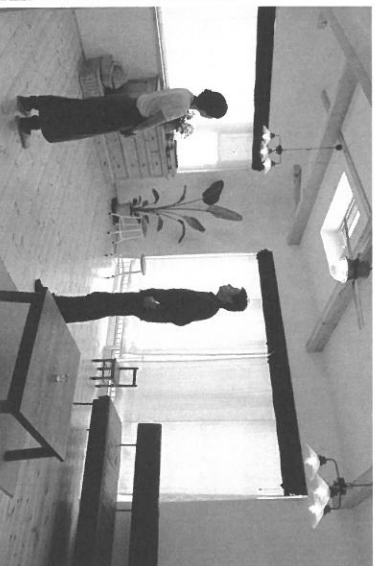
そこでオールアース住宅だ。文字通り、アースしてくれる住宅である。まず、床と床から1mの高さまでの壁を「有機導電性シート」で覆いアース機能を付加。もちろん家ごと囲むこともできるが、予算もかかるし、長い場所(リビング、台所、寝室、子ども部屋など)

「目に見える効果」とは？ 実感すべしレジナの電磁波測定士、島内大介さんの測定に立ち会う(写真参照)。体を通る電気で小さな豆電球が灯るのには驚き！ こういった

視化が、私のように電磁波の存在に懐疑的、または無頓着な人間にはとても説得力を持つ。早速家に帰って夫に伝え、コンセントからベッドの位置をずらしたのだった。



佐藤邸 + natural sweet Senの外観。内装と同じく外壁も漆喰で真っ白に塗り上げられている



1階リビングルーム。電磁波対策だけではない、自然派素材にもこだわるのがオールアース住宅。もちろん自然採光、自然換気も取り入れている。この家が長期優良住宅ではないのだから、国の基準はどこおかし



カフェ部分もオールアース。美しいランプが愛べられるのに、オールアース空間も体験できます



リビングは絶対にアースをとってほしいと島内さん。オアシスからの測定依頼もあるそう。コンセントの下部の細い線がアース

2階にて電磁波測定。

電磁波測定値は25V/m以下が基準。

「現場で電気工事の方から理解を得るのが難しい」とのこと。知識で渡り合うため、(第二種)電気工事士の資格も取得した。



導電性シート施工の居室。値は9V/m！



導電性シート施工の居室では8V/m。その差は歴然



【建築概要】

- 建築設計・構造設計：さりんホーム／山根一純
- 施工：さりんホーム／山本使虎
- 建築用途：住宅＋カフェ
- 構造：木造2階建 在来工法
- 竣工：2015年12月



施工中の様子。灰色の布状のものが導電性シート(写真提供：レジナ)

今回快くご自宅の取材に協力してくれた佐藤さんを真ん中に、右がレジナ代表の土田直樹さん、左がレジナの島内大介さん

